

専門科目【生涯発達看護】

授業科目名	生涯発達看護特論Ⅱ <i>Advanced Studies in Nursing across the Lifespan II</i>		担当教員	姫野 稔子、中村 光江 大重 育美、永松 美雪 原田 紀美枝	
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	人間の生涯発達の各期におけるさまざまな健康レベルに応じた看護介入方法について探究する。				
到達目標	<p>成人看護(慢性)分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人看護(慢性期、終末期)における実践・研究のための基本概念および理論を理解する。 2. 成人看護(慢性期、終末期)における倫理的課題と解決方法を考察することができる。 3. 成人看護(慢性期、終末期)の対象に応じた介入・支援方法を考察することができる。 4. 成人看護(慢性期、終末期)分野の論文を抄読し、実践・研究の方向性を概観できる。 <p>老年分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Agingのメカニズムを理解できる。 2. Agingに関する諸理論やケアモデルを看護介入に活用する方法を理解することができる。 3. 老年期における倫理的問題と解決方法を理解することができる。 4. 老年看護領域における論文を抄読し、研究の動向を概観することができる。 <p>成育分野</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胎児期から成熟期の成長・発達の過程と成長・発達に影響する要因を理解できる。 2. 成育領域における諸理論やモデルを看護介入に活用する方法を理解することができる。 3. 子育て支援にかかわるネットワークの多様性について理解できる。 4. 成育領域における論文を抄読し、看護実践・研究の方向性を概観できる。 				
授業計画	<p><成人看護(慢性)分野> 担当 中村</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 成人期(慢性期、終末期)の特徴 2回 成人看護(慢性期)における実践・研究のための基本概念と理論(1) 3回 成人看護(慢性期)における実践・研究のための基本概念と理論(2) 4回 成人看護(慢性期、終末期)における倫理的課題 5回 成人看護(慢性期、終末期)における意思決定支援 6回 成人看護(慢性期、終末期)における困難事例の検討 7回 成人看護(慢性期、終末期)における困難事例の検討 8回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(1) 9回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(2) 10回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(3) 11回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(4) 12回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(5) 13回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(6) 14回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(7) 15回 成人看護(慢性期、終末期)に関する研究論文の抄読およびクリティーク(8) 				

<p>授業計画</p>	<p>〈老年看護分野〉 担当 姫野、原田 1回 Agingの理論(姫野) 2回 老年期の発達の特徴(姫野) 3回 人口の高齢化と制度の変遷(原田) 4回 老年期におけるケアモデル・理論と看護への適用(1)情動的中範囲理論(姫野) 5回 老年期におけるケアモデル・理論と看護への適用(2)コンフォート理論(原田) 6回 高齢者の健康問題と看護介入方法(姫野) 7回 老年看護分野における倫理的問題(原田) 8回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(1) 9回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(2) 10回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(3) 11回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(4) 12回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(5) 13回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(6) 14回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(7) 15回 院生による老年看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(8)</p> <p>〈成育看護分野〉 担当 大重、永松 1回 胎児期の倫理的問題とアドボカシー(永松) 2回 胎児期・新生児期の成長・発達過程(永松) 3回 胎児期・新生児期の成長・発達に關与する要因(永松) 4回 小児期の成長・発達過程(大重) 5回 小児期の成長・発達に關与する要因(大重) 6回 思春期・成熟期の成長・発達とパートナーとの関係性(永松) 7回 親としての発達に関する理論・モデル(永松) 8回 親役割獲得過程にある女性とパートナー・家族に関する文献検討(永松) 9回 家族システム理論について(大重) 10回 家族システムに関する文献検討(大重) 11回 育児ネットワーク論について(大重) 12回 育児ネットワークに関する文献検討(大重) 13回 院生による成育看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(永松、大重) 14回 院生による成育看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(永松、大重) 15回 院生による成育看護に関する研究論文の抄読およびクリティーク(永松、大重)</p>
<p>学習方法</p>	<p>生涯発達看護特論Ⅰを基盤に各分野に分かれ、その理論や他領域の最新研究知見に基づいた講義を行い、看護介入方法について探究する。課題に対し文献検索およびレビューを行い、ディスカッションし自らの考えを深め、言語化する。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>以下の時間帯およびメールでのアポイントメントにて設定します。 姫野：金曜日の昼休み、t-himeno@jrckicn.ac.jp 中村：火曜日の昼休み、m-nakamura@jrckicn.ac.jp 大重：火曜日、水曜日の昼休み、n-ooshige@jrckicn.ac.jp 永松：火曜日の昼休み、m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp 原田：水曜日の昼休み、k-harada@jrckicn.ac.jp</p>
<p>テキスト</p>	<p>指定しない</p>
<p>参考文献</p>	<p>乾敏郎他：よくわかる認知科学。京都，ミネルヴァ書房，2010。 Lubkin, I. M., Larsen, P. D.: Chronic Illness Impact and interventions. 2002, 黒江ゆり子監訳：クロニック illness 人と病いの新たななかかわり。東京，医学書院，2007。 Joyce, E. Thompson, et al.: Bioethical Decision Making For Nurses, 1992, ケイコ・イマイ・キン他訳：看護倫理のための意思決定 10 のステップ。東京，日本看護協会出版会，2004。 安藤邑恵他：ICF の視点に基づく高齢者ケアプロセス。東京，学文社，2009。 野沢慎司：リーディングスネットワーク論。東京，勁草書房，2006。</p>
<p>評価方法</p>	<p>授業への参加度・ディスカッション (50%) プレゼンテーション (50%)</p>